

SUTPAPER

100



重度の知的障害と言語障害を持つGAKUが4年前に突然「絵」という「言葉」を見つけた。岡本太郎美術館を訪ねた翌日から突然絵を描き始め、現在は年間240枚以上の作品を描き続けている。

もし「絵」が彼の「言葉」であれば、GAKUは膨大な量のコミュニケーションを発している。

そんなGAKUの絵は我々に直感的に語りかける。

GAKU/アメリカ国籍/2001年生まれ/川崎で活動
生まれつき自閉症で知的障害と診断され、自閉症対処で9年間ロスアンゼルスへ渡米。15歳の時に日本へ帰国し、父親が川崎で始めたアイム（発達障害の福祉施設）の運営するノール高校に通い始める。言語を介さない独自の特殊な世界観を持つ。小学2年生ほどのコミュニケーション力だが、言語を超えた領域で特別な能力を発揮。左脳を排除した右脳だけの世界で自分の表現力をみつける。彼の作品は極めて直感的で外の次元からパワーが湧き出ているかのような波動を発している。現代人が窮屈な常識や世間のこうあるべきだというルールで疲弊する中、彼の直感的で自由な表現力は、我々に「本当の障害とは何か？」を問いかけている。



bygaku.com

彼にとって絵は自閉症と世間との「接点」である。



by GAKU GICLEE

2021.8.4 wed.-22 sun.
13:00-20:00 ※月・火・8/8(日)休み



＜イベント詳細ページ＞
今回の展示・販売は原画ではなく、高繊密な複製画（Giclee）となります。

中目黒駅を出て山手通りを右へ。築100年の長屋で、1階はギャラリーとフリーペーパー専門店。2階はデザイン会社が発行するフリペ。

Space Utility TOKYO
〒153-0061 東京都目黒区中目黒3-5-3
03-3792-1990 / time@space-utility.com



SUTPAPER Vol.001/エスユーティーペーパー 創刊号
2021.08.15 発行
発行者：Space Utility TOKYO
企画・制作：東京失印/運営：東京ピンポン

byGAKU GICLEE SPECIAL INTERVIEW



Special Feature



「Giclee」はデジタル複製画の一種で、35mmフィルムをスキャンしてデジタルデータに変換し、高解像度のインクジェットプリンターで印刷された複製画を指します。Gicleeは「G」(Griset)、「I」(Image)、「C」(Color)、「L」(Laser)、「E」(Epson)の頭文字を取った言葉です。Gicleeは複製画の中でも最も高品質な複製画とされています。Gicleeは複製画の中でも最も高品質な複製画とされています。Gicleeは複製画の中でも最も高品質な複製画とされています。



byGAKUの作品をお求めやすい価格で、より身近にお楽しみいただけます。
高繊密な複製画(GICLEE)となります。
主な展示・販売は原画ではなく、※一部原画

byGAKU GICLEE/複製画について



2001年がっちゃん
横浜の東戸塚市で誕生!

5コススム!

3歳の健康診断の時に
自閉症と診断。
しかも重度の知的障害

1回お休み

がっちゃん4歳の時に
セラピー(療育)を受けるため
アメリカへ

1コモどる

9年間
ロスアンゼルスで
生活。

1回お休み

自閉症は
生まれつきの特性。
治療して治すものでは
ないことに気づく

1コススム!

アイム HAPPY!!

ガッちゃん スゴロク!

ガク、
小さい!



2014年
がっちゃんのために
放課後等デイサービス
登場!!

1コススム!

がっちゃん
14歳のときに帰国

もう1回振る

ガク、
ニューヨーク、
かざったー!

「ガク、
オオキワナナイ」
がっちゃん、
自分が大きくなる
将来への不安。

4コモどる

がっちゃん16歳のときに
遠足で岡本太郎の絵に出会う。
5分間を絵の前で
じっと立つという奇跡

1回お休み

「ガク、Paint!」
遠足の翌日突然宣言。
いきなり筆をとり
絵を描き始めるという
スゴイ奇跡!!

1コススム!

「アーティストGAKU」
誕生!!
「絵」という言葉を手に入れ
16年間の想いがあふれ出す

1回笑う

「ガク、ニューヨーク、
かざろー!」
2019年、
念願のニューヨーク
展示会を実現!

もう1回振る

GOAL!!

完全に理解不能な宇宙人だったがっちゃん。
だんだんと人らしい意思疎通が少しずつとれるように。
想像をこえる葛藤の中で奮闘してきましたがっちゃんでしたが
その時に自分なりの救いと希望を「絵」に見出しました。
そして20歳となったGAKUさん。
今後の活躍にはHAPPYしかない!



ARTIST

公式HPで
活動報告中!



byGAKU/がっちゃん

アメリカ国籍/2001年生まれ/川崎で活動

自閉症アーティストとしてSGDsアートの最前線で活躍するGAKU。重度の自閉症・知的障害を持ち、言語能力は幼稚園以下。そんなGAKUが16歳の時に奇跡の扉を自ら開きます。遠足の時に岡本太郎の絵に接して翌日から突然絵を描きはじめたのです。彼にとって「絵」は自閉症と世間との「接点」となり、今では年間200以上の作品を生み出しています。もし「絵」が彼の「言葉」であれば、GAKUさんは膨大な量のコミュニケーションを発していることに。そんなGAKUさんの「絵」は、我々に直感的に語りかけてきます。

PRODUCER

好評!
「療育なんか
いらない!
ブログ」



佐藤典雅/のりさん

GAKUさんのお父さん/株式会社アイム代表

株式会社アイム代表。BSジャパン、ヤフージャパン、東京ゲームコレクション、キットソンのプロデューサーを経て、自閉症である息子のために福祉事業に参入。川崎市で発達障害の児童たちの生涯のインフラ構築をテーマに活動している。神奈川ふくしサービス大賞を4年連続で受賞。著書に「療育なんかいらない!」(小学館)がある。息子であるGAKUは国際的なアーティスト活動が目目され、数多くのメディアで取り上げられている。



GAKUさんは自閉症で、
自分の作品を紹介する言葉を持ちません。
(もっとも絵という豊かな表現を持っているのですが)

そこでGAKUさんの父親であり彼のプロデュースを手掛ける
佐藤のり氏にGAKUさんの制作の秘密から、
ユニークな取組みが盛り込まれている
今回の展示のことまでお話をうかがいました。

01



絵を描くことで、
言葉を得た

色鮮やかでポップな作品が並びます。動物を描いたものや、抽象的な幾何学模様を描いたものがありますが、同じシリーズは同じタイミングで描かれたものなのですか？

GAKUにはブームがあって、同じテイストのものを4~5枚続けて描いています。ブームが去ると、バン！と全く違うところに行く感じ。なにをどのタイミングで描くかは、誰にも分からなくて、「この感じすごくいいから、もう1枚描いてみたら？」と促しても「No」と断られちゃう(笑)。大きな流れで見ると、どうやら今はドットに興味があるみたいだ、などと分かるのですが、どう仕上がるかはGAKUのみぞ知る、です。



アトリエ：壁一面は作品棚で埋め尽くされている



アトリエ：今日は緑の具材を使い切る日

GAKUさんは16歳で出会った岡本太郎の絵をきっかけに、突然絵を描き始めたのですよね。その時、彼の中でなにが起きたのでしょうか？

「ああこうやって表現すればいいんだ」と、アウトプットの方法が見つかったのだと思います。GAKUにとって「絵は言葉」です。彼が描くまで、なにを感じているか、なにを表現したいと思っているかを、知るべきがありませんでした。絵を描くことは、彼にとってのコミュニケーションの手段です。年間200枚以上描いているのですから、実はずいぶんおしゃべりだったんですね(笑)。人間の知性は、言葉だけでは測れないということでもあります。

絵を描く以前と以後で、GAKUさんは変わりましたか？

絵を描く以前のGAKUは、背が高くなることを恐れていました。成長して大人になることは、先行き不透明で不安なことではありませんでした。しかし「GAKUの仕事はペイント」と言えるようになってからは、漠然とした大きな不安は解消されたようです。なにしろ初めて人に褒められたわけですから、彼の自信につながっています。



Photo: Endo Asumi / 『byGAKU - 20』より



SUT/展示会場にて

最新の画集*ではメイクをしてモデルにもチャレンジしています。いまどきのジェンダーレスな若者でかっこいいですよ。

GAKUは、自閉症の傾向としてじっとしていることが苦手なのですが、美容室に行く、あの落ち着きのないGAKUが座ってブリーチしてもらっているんです！初めて髪を染め、メイクをした自分を見て「自分、イケてる」と思ったみたいですよ(笑)。彼ならではの美的感覚にスイッチが入って、ファッションを楽しんでいます。

*クラウドファンด์『byGAKU - 20』20歳の記念画集プロジェクト
2021.8.31まで

02

アート界に対する
アンチテーゼ



アトリエ：GAKUさんと、相棒ココさんのデスク



GAKUさん愛用の画材

GAKUの絵には、「Happyライン」と「APライン」という2つのラインがあります。「Happyライン」は、みなさんにハッピーをおすわけしたいと価格を設定している作品群。「APライン」は、Artist Proofといって、基本的には画家が所有するもので、どうしてもという場合にのみ一対一で価格を設定してお譲りするものです。

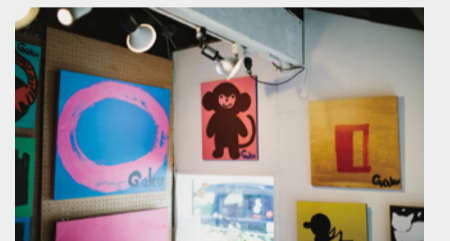
今回展示するのは、すべてこの「APライン」の作品です。GAKUにとってのシグネチャーが表現されていて、重要な作品ばかり。ただそれだとなかなかみなさんに手にとっていただくことができないので、ジークレーを制作することにしたというわけです。

今回の展覧会では、原画ではなく、すべて精密な複製画である「GICLEE/ジークレー」を展示・販売します。日本ではかなり先駆的な取り組みになりますね。

ジークレーとは2億画素の解像度で、原画を極限まで忠実に再現するレプリカで、既に海外では広がっている手法です。ただ画家が有名になってから制作をすることが一般的なので、アートに詳しい人ほど、今回の取り組みに驚いています。

あえてそこに踏み込んで、実現したいことがあるということでしょうか。

僕たちは、既存のアート界で常識とされてきたことに「それって本当？」と疑問を投げかけて、新しいアートのあり方を提示したいのです。例えば、絵の値付けの方法。通常新人の作品には「1号1万円」というサイズによる相場があります。それはどんなに自信作でも変わりません。反対に大きければ出来があまりよくなくても価格は高くなる。これって変ですよ。ですから僕たちは絵それぞれについて「感情的にいくらだったら手放してもいいか」という基準で価格を決めることにしたのです。



SUT/展示会場

03

もっと自分の眼で
アートを見よう！



GAKUさんの絵とのアクセスの方法が増える、というイメージですね。興味を持つ人は、従来の展覧会と変わりそうですか？

見に来てくださる方は、GAKUの絵が好きなのという点で変わりますが、購入を検討してくださる方は変わるとも思います。ジークレーは、もっと気軽に飾りたい、インテリアとして購入したいというニーズに応えられるものです。

GAKUさんの絵が部屋にあったら、元気になるだろうなと想像できます。

これは僕の考えですが、クリエイティブというのは、闇と対面する作業です。宇宙のビッグバンも、土の中から植物が芽吹くのも、赤ちゃんが子宮から生まれてくるのもそう。クリエイティブの根源は闇の中であって、それが外に出た時にどのように光を当てるとかというのがアーティストの役割ではないでしょうか。究極のポジティブというのは、内在しているネガティブをポジティブに変換できる力強いということ。その意味でGAKUの人生も、本人は明るくハッピーなのですが、内面的には社会から隔離され自分の中に閉じ込められている期間がずいぶんありましたから、その闇をポジティブ変換したのが、彼の絵なのだと考えています。



UT：ドット作品はGAKUさんの最初の1枚



倉庫：原画は大きい作品が多い



アトリエ：GAKUさんは掃除が大好き

告知としてGAKUさんの絵をお店に貼っていたら、年配のご婦人に声を掛けられました。「絵と目が合ったから入ってきたけど、まだなのね」って(笑)。ステキだなあと思いました。幅広い人を惹きつける、人を緊張させない絵ですね。

絵もまたみんなに開かれたカルチャーなので、本当にいいもの、自分が好きなものはそれぞれが判断すればいいと思うのです。映画やマンガを評価するみたいに。GAKUは、毎日素直な気持ちで絵と向き合っています。この展覧会が、そのエネルギーをストレートに受け取ってもらえる場になったらうれしいですね。



アトリエ：GAKUさんは掃除が大好き